

研究機関：広島大学

研究課題名	広島大学病院における HIV 陽性者の覚せい剤使用者への支援-地域の専門機関へのつながり-
研究責任者名	広島大学病院輸血部 准教授 藤井輝久
研究期間	年 月(倫理委員会承認後) ~ 2020年 3月31日
対象者	2016年4月から2019年6月までに当院に通院していた HIV/AIDS 患者のうち、経過中に覚せい剤の使用が判明した7名を対象としています。
意義・目的	<p>HIV/AIDS の治療は、劇的に進歩しウイルスコントロールが可能になり、生命予後が大幅に改善されています。しかし、HIV 陽性者の心理・社会的背景には、セクシャリティによる差別・偏見や薬物使用といったさまざまな問題から、服薬や定期受診が困難となることが報告されています。特に、薬物使用の問題は、本人からの訴えが起こりにくく、医療スタッフも気づきにくい問題です。しかし、HIV 陽性者の薬物の生涯経験率は80%との報告があります。さらに、依存症になるリスクは一般人口の2~4倍とも言われており、HIV 診療の中でも重要な課題とも言えます。</p> <p>そこで、本研究では、覚せい剤使用者への心理支援の効果を検討するとともに地域の専門期間につながった経緯を明らかにすることで、今後のチーム医療の質の向上につながると思い、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は、年齢、受診中断の有無、精神科受診歴の有無、物質使用障害回復プログラム経験の有無、専門期間につながった経緯に関する内容です。（個人が特定され得るような情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	本研究における共同研究機関はありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 輸血部 准教授 藤井輝久
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 TEL：082-257-5351 広島大学病院エイズ医療対策室 杉本悠貴恵